第 2720 地区
熊本東南ロータリークラブ　週報
創立 1984 年 4 月 4 日

2024 ～ 2025 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーのマジック

●会長　前田日出夫
●幹事　福井　学

No.1900　令和 07 年 05 月 21 日　第 35 回例会

※例会日　毎週水曜日　１２：３０～
※例会場　〒８６０－０８４６　熊本市中央区城東町４の２　熊本ホテルキャッスル内
※事務所　〒８６０－０８４６　熊本市中央区城東町４の２　熊本ホテルキャッスル内　TEL 354-4521　FAX 354-4053
※ URL　https://www.serc2720.org　※ email　serc@serc2720.org

■点鐘

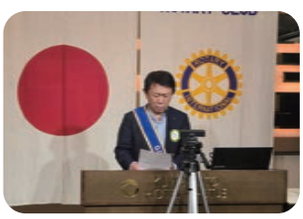
■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「奉仕の理想」

(ソングリーダー彌冨 照皇)

■ 来訪者紹介

（会長　前田日出夫）
・天草ＲＣ　深谷　茂　君
・天草ＲＣ　舩田一光　君



■　4 月・5

■ 会長の時間

（会長　前田日出夫）

人生には転機というのがあると思います。
私は 16 才、高校生の時、矢沢永吉の「成り上がり」という本を当時友人と回し読みしました。なぜか今でも覚えているのが確か、最後の方に、誰でも自分に出来ることが必ずあると書いてあったのを今でも覚えています。私もこの年になって思うのは、人生を決めるような事は 20 代～ 30 代の環境だと思います。性格や人間性もそうゆう次期に自然と出来てくるんだと思います。
私事ですが、十数年前、グランメッセ熊本で初めてＴＧＣ「東京ガールズコレクション」が開催された時、手伝ってくれと言われ、美容師さん達を集めて、当時、モデルさん達のヘアメイクを任されたのを思い出します。その時は展示ブースにメーカーのシャンプー、トリートメントを 120 本ずつ展示しましたところ、「矢沢の 2 秒」じゃないですけど、5 分くらいで完売したのを思い出します。

最初はＴＧＣ「東京ガールズコレクション」って、なんやそれ、っていう感じでしたけど、それが終わってからというもの、業界での認知度が比較的に上がったのを思います。これからもロータリークラブはいろんな活動をされると思いますが、東南ロータリークラブだけの奉仕活動の他に、他クラブとの合同の奉仕活動、または、市域全体での奉仕活動に、いかに一般の人も参加できるような活動があれば、自然とロータリークラブの認知度も上がって会員の増加にも繋がっていくのではないかと思います。
参加しないと認められないという考えがありましたが、コロナ禍以降、若い人達の場合も用意があればリモートで参加する事も可能だと思うし、そうやって奉仕活動をするという目的があって、その機会に集まって入会するという流れになっていけば会員も少しずつ増えて、例会にも参加できる人は来るという風になっていって、良い流れになっていくんだと思います。
また、5 年くらいの東南ローターアクト 40 周年には、この状況で行けば「広範囲」に会員を募ることが出来て 40 ～ 50 名も自然となるんじゃないかと思いますし、70 ～ 80 名となった時は、ローターアクトも今までにない新しいカタチになるような予感を感じましたし、私自身も含めてロータリーも色んな意味で新しくなっていく事もありますけど、考え方として否定から入らずに、まず、受け入れるという考えを持っていかないと時代の変化にはついて行けないと感じました。

■幹事報告

(幹事 福井 学)

■来信案内

特にございません。

■クラブより

１）
第１１回定例理事会報告。

２）
地区ＨＰへの掲載紹介
（熊本東南ＲＣ藤崎台童園ふれあい農園「苗つけ」活動報告）
週報増刊号および 2720 地区ホームページ上に掲載してあります。

■今後の地区行事

開催日		行事名	場所	会場	出席者
2025 年	6 月 21 日（土） 22 日（日）	地区ローターアクト研究会	熊本県 熊本市	熊本国際交流会館 熊本市中央公民館他	全会員登録

■ロータリ情報の時間

（ロータリー情報担当委員　鈴木義親）

◆国際ロータリー 2025 規定審議会
決定報告書について
規定審議会は 3 年に一度開催されます。
この規定審議会ではロータリーの組織規定に変更を加える制定案と RI 理事会の見解を表明する見解表面案についての審議と投票が行われます。
国際ロータリーの規定審議会が 2025 年 4 月 13 日～4 月 17 日に米国イリノイ州シカゴにおいて開催されました。
地区代表として中津ロータリークラブのパストガバナーが出席されました。代表議員は 2023 年、2024 年、2025 年の決議審議会、および 2025 年の規定審議会に出席。
今回の規定審議会には 86 件の制定案が提出され、事前審査で採択された 1 件を含む 31 件の制定案が採択されました。
37 件が否決、11 件が撤回、4 件が RI 理事会に忖度、3 件が無期限の延期。
採択された改正
・国際ロータリー定款の改正　　1
・国際ロータリー細則の改正　　28
・標準ロータリー細則の改正　　2
計　　31 件

※規定審議会決定権報告書については 31 ページにわたる多量の内容のためメールにてお知らせいたしております。
PC，スマホ等でご確認ください。

■委員会報告

（社会奉仕担当委員長　宮川義行）

◆野菜収穫体験学習について
昨年より進めてまいりました野菜収穫体験学習を、6 月 28 日に行いたいと慈愛園より連絡がありました。
西田会員の弟さんの坂本農園の全面的な協力により、農園を開放して収穫した野菜は持ち帰りＯＫだそうです。
アクトも参加させてもらいたいということで、慈愛園の園児、先生、ロータリアン、アクトの混合グループを幾つか作りたいと思います。
1985 年より続いてきたサマーキャンプがコロナで中止になって、慈愛園の子供達とロータリアンが一日一緒に親子のように触れ合う機会がなくなりました。
この取り組みは、子供たちが楽しみにしています。
多くの皆様の参加とご協力をお願いいたします。

■出席報告

（出席・プログラム担当委員長
片岡　貞志）

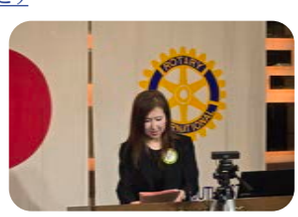
月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率（%）
05 月 07 日	休会	-	-	-	-
05 月 21 日	38 （免 2） 36	26 （ZOOM2）			69.44

★退　会
5 月 16 日：宮國龍乃

☆出席免除
5 月 21 日：島村徹男・志賀重人

■スマイル

（親睦・スマイル担当委員　生駒ちあき）



◎深谷茂　様、舩田一光　様
（天草ＲＣ）2,000 円
本日は卓話におじゃまいたしました。天草の紹介をさせていただけたらと思います。よろしくお願い致します。

◎白木誠一　10,000 円
結婚記念日ありがとうございました。
45 周年でした。

◎彌冨照皇　5,000 円
天草ＲＣ 深谷次年度ガバナー補佐、舩田パストガバナー補佐、ご来訪を歓迎致します。本日の卓話は大変楽しみにしております。今後とも宜しくお願い致します。

◎宮川義行　5,000 円

天草ＲＣの深谷様、舩田様の御来訪を歓迎します。先日の例会の誕生日プレゼント、ペアグラスありがとうございました。さっそく焼酎を飲みました。5 月 10 日の誕生日、渡邉会員と同じです。1 年 365 日人は生まれ、会員 40 名ほどの東南ＲＣの中で同じ誕生日も珍しいと思いました。年齢もあまり変わりません。お互い頑張りましょう。
今日は 1 行余りました。

◎沼田敏雄　5,000 円

昨日（5/20）
運転免許認知機能検査 3 回目の講習を受け、無事に通過。3 年間は乗れます。
3 年後（85 歳）の検査にも努力します。
（認知症になりませんように）

◎前田日出夫　3,000 円

天草ＲＣ（次年度ガバナー補佐）
深谷茂様、天草ＲＣ（パストガバナー補佐）
舩田一光様、御来訪を歓迎致します。
卓話楽しみにしています。

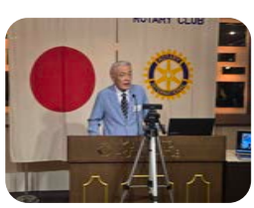
◎杉本整哉　3,000 円

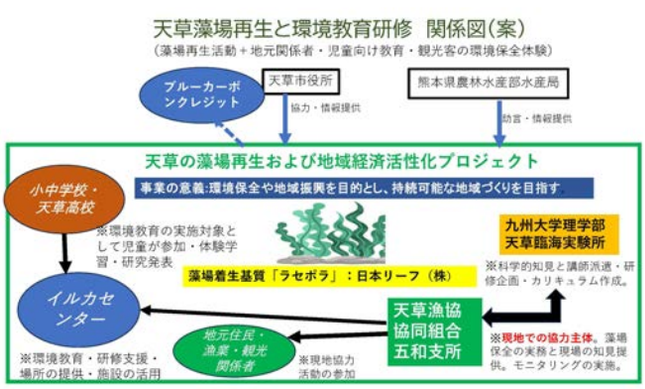
深谷様、舩田様のご来訪を歓迎いたします。
松田会員、
先週のＳＡＡ代理ありがとうございました。

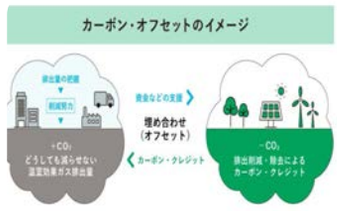
■卓話

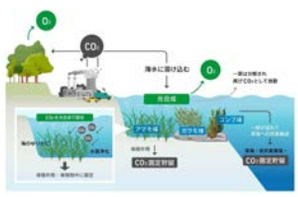
「天草沿岸の藻場再生と海洋生態保全プロジェクトについて」

（天草ＲＣ　深谷　茂　様）

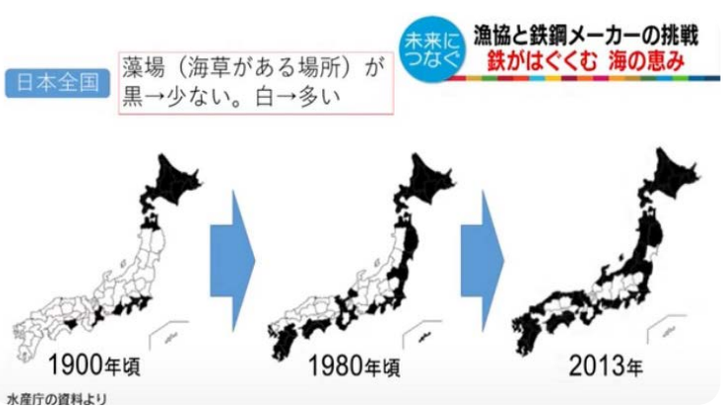








アマモと海藻の分布



◆プロジェクト概要

プロジェクト名：天草の藻場再生および地域経済活性化プロジェクト

背景と課題

天草沿岸では、近年の藻場消滅が深刻な問題となっています。藻場は、魚や貝類などの重要な生息地であり、地域漁業の資源確保や生態系の維持に不可欠です。しかし、以下の要因により藻場が急速に減少しています。

- 磯焼け現象：ウニの異常繁殖により海藻が食べ尽くされる
- 水温上昇：地球温暖化の影響で藻場の生育環境が悪化
- 海の栄養不足：河川からの栄養塩の流入減少
- 沿岸開発：埋め立てや港湾整備に伴う藻場の喪失

このままでは、天草の豊かな海の生態系が破壊され、地域の漁業や観光業にも深刻な影響が出ることが懸念されています。

プロジェクトの目的

本プロジェクトは、藻場の再生と保全活動を通じて、天草沿岸の海洋生態系を回復させるとともに、地域漁業の持続可能な発展に貢献することを目的とします。

主な活動内容

1. 藻場の再生事業
- 健全な藻場から海藻を移植し、藻場の回復を図る
- 海藻の成長に適した基盤材（ロープやコンクリートブロック）の設置

2. 教育と啓発活動
- 地元住民、漁業関係者、学生を対象に、藻場の重要性や保全活動についてのワークショップやセミナーを開催
- 海洋保全活動を通じた環境教育の推進

3 持続可能な管理体制の構築
- 地元漁業協同組合や行政機関と連携し、藻場保全活動を継続的に実施するための組織体制を整備

期待される成果

- 天草沿岸における藻場の回復と海洋生態系の改善
- 地域漁業の資源回復と生産性の向上
- 地元住民や漁業者の環境保全意識の向上

・　イルカウォッチング観光産業の持続

予算と期間:グローバル補助金を使えるのは 30,000 ドル以上のプロジェクト

- **予算規模:$30,000～$40,000(目安)**
- **プロジェクト期間:2 年**
- 東南 RC の現金拠出金:約 2,000 ドルを考えています。
- 2720 地区の DDF と WF　～18,000 ドル～20,000 ドル
- 第三グループのクラブ～
- 海外援助クラブ:3501 地区、竹南千喜 RC その他
- 　　　　　　　3490 地区、板橋南 RC

パートナー団体

- **地元漁業協同組合**
- **天草市役所および熊本県の関係機関**
- **九州大学**
- **地元の教育機関**

持続可能性

本プロジェクトは、地元漁業者や住民が主体となり、長期的な保全活動が継続できる仕組みづくりを重視します。また、イルカウォッチングによる特産品開発や観光資源化など、経済的な利益を生み出す取り組みも取り入れ、地域社会に根付く持続可能なモデルを確立します。

このプロジェクトは、環境保護と地域経済の発展を両立させる意義深い取り組みとして、グローバル補助金の活用します。

ネットブルリーフ 2.0m 型セラポラ付

潜水効果調査

報　告　書

況を把握することを目的とする。

2) 調査対象の概要

調査対象としたネットブルリーフは、平成 21 年度事業で 25 基沈設されている。事業諸元及び、調査対象諸元を以下に示す。

○　事業諸元

事　業　名 : 平成 21 年度天草東地区水域環境保全創造事業　第 2 号
（事業内容）　（ネットブルリーフ 2.0m 型セラポラ付（7 基））
平成 21 年度天草東地区水域環境保全創造事業　第 1 号
（ネットブルリーフ 2.0m 型セラポラ付（4 基））
平成 21 年度天草東地区漁場環境保全創造事業　第 1 号
（ネットブルリーフ 2.0m 型セラポラ付（14 基））
設　置　日 : 平成 21 年度
設 置 箇 所 : 熊本県天草市新和地先（図-1）
配置図（座標） : 図-2（表-1）
水　　深 : ～15m

○　調査対象諸元

調査対象機種 : ネットブルリーフ 2.0m 型セラポラ付　2 基（図-3）
（以下　ネットと称す）
寸　　法 : 4.905*4.905*2.000（m）
空　容　積 : 14.84（空m³）

図-1　調査位置図

図-2　魚礁配置図

表-1　調査対象の設置座標（WGS84）

調査地点名	座標 X	座標 Y	備考
ネット①	-36208.987	-76973.066	
ネット②	-35610.863	-76445.886	

図-3　ネットブルリーフ 2.0m 型セラポラ付

3) 調査方法

調査は、ダイバーによる潜水調査を行った。

潜水調査によりネットブルリーフの設置状況、魚類蝟集状況、海藻着生状況の観察、水中カメラ、水中ビデオの撮影を行った。魚類は蝟集場所、種名、個体数、大きさ等を確認した。付着生物は海藻は種名、被度を確認した。

表-2　調査内容概略

調査方法	目視観察（蝟集魚類、海藻、付着）			撮影（水中ビデオ）			撮影（水中カメラ）		
	蝟集魚類	着生海藻	設置状況	蝟集魚類	着生海藻	設置状況	蝟集魚類	着生海藻	設置状況
ダイバー	○	○	○	○	○	○	○	○	○

4) 調査結果

4-1) 一般観測結果

調査は平成 22 年 4 月 22 日に実施した。この時の天候等海象は表-3 に示す通りである。調査時、大きな潮流の変化も無く安定した状態であった。

表-3　調査時の天候等海象について

調査日	波高 (m)	気温 (℃)	天気	風向	風速 (m/s)
H22.4.22	0.5	18.8	雨	西南西	10.3

4-2) 潜水調査結果

4-2-1) 設置状況

ネットの6点の角の水深を測定し、埋没状況を確認した。以下図-4 に結果を示す。測定結果より設置状況は安定していた。また、目視による洗掘状況を観察した結果、僅かな洗掘は確認されたが、設置状況に支障をきたすものではないと考えられる。

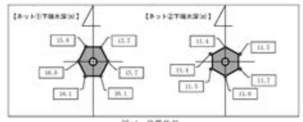


図-4　設置状況

4-2-2) 付着生物観察結果

潜水調査で観察された付着生物観察結果を以下表-4 に示す。付着生物の着生被度は低く、出現種すべてが被度 5%未満であった。

表-4　付着生物観察結果

種名	ネット① 被度(%)	ネット② 被度(%)
普通海綿綱	r	r
ヒドロ虫綱	r	r
カンザシゴカイ科		
苔虫綱		
アカフジツボ	r	r
ホヤ		
海鞘亜綱（単体性）	r	r

備考）r は被度 5%未満であることを示す。

4-2-3) 着生海藻観察結果

潜水調査で観察された着生海藻観察結果を以下表-5 に示す。ネット①-②では、ポーラス部、礁全面共にアントクメが主として着生していた。被度はポーラス部では、80-95%、礁全面では 30-80%であった。

表-5　着生海藻観察結果

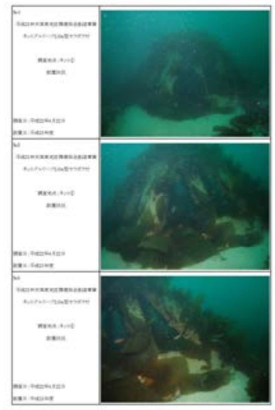
種名	観察範囲	ネット① 被度(%)	ネット② 被度(%)
アオノリ属	ポーラス部	r	r
アオサ属	ポーラス部	r	r
シオグサ属	ポーラス部	r	r
ミル属	ポーラス部		r
シワヤハズ	ポーラス部		
アミジグサ科	ポーラス部		
コモンナガクロ	ポーラス部	r	r
フクロノリ	ポーラス部	5	5
カゴメノリ	ポーラス部		
アントクメ	ポーラス部	80	95
サンゴモ科（無節サンゴモ類）	ポーラス部	5	5
ネマイタダキ	ポーラス部	r	r
ユカリ	ポーラス部	r	r
イギス科	ポーラス部	r	r
ハイウスバノリ属	ポーラス部	r	r
アヤニシキ	ポーラス部	r	r
イトグサ属	ポーラス部	r	r
アントクメ	礁全面	30	80

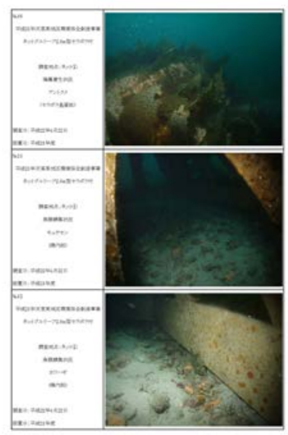
4-2-4) 蝟集魚類観察結果

ダイバーによる潜水調査で目視観察された蝟集魚類を以下の表-6 に示す。

潜水調査で観察された蝟集魚は、ホシササノハベラ、ホンベラ、キュウセン、チヂブ属、ニシキハゼ、ハゼ科、メバル、カサゴ、カワハギ、ハコフグ属、キタマクラの 11 種であった。

観察魚種は、主として礁内部で観察された。また、メバルは礁内部への逃避行動が確認された。





■点鐘

（編集者　松尾　浩）